環境経営レポート

令和５年度版

（令和４年 12 月１日～令和５年 11 月 30 日）

株式会社　野上緑化

令和６年４月５日

１.事業者活動の概要

（１）　事業所名及び代表者氏名
株式会社　野上緑化
代表取締役　野上　一志

（２）　所在地
富山県富山市新保 271

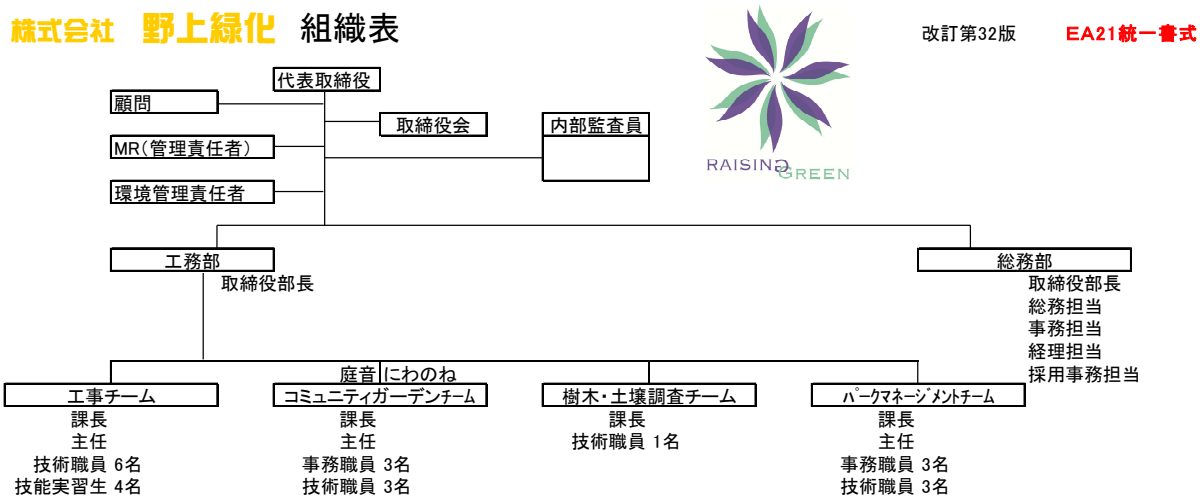
（３）　担当者連絡先
環境管理責任者　帳山　朋美
ＴＥＬ　076－429－1310

（４）　事業概要
造園工事、都市公園の指定管理業務、公園・道路・庭園等の緑地維持管理、室内・屋上・壁面等の緑化、土壌改良材や樹木等の造園資材販売

（５）　事業の規模
売上高　　3 億 6,683 万（令和 5 年度）
従業員数　　39 人
床面積　　578.04 ㎡

２.対象範囲

・全組織、全活動
・レポートの対象期間 2022 年 12 月 1 日から 2023 年 11 月 30 日
・レポートの発行日　2024 年 4 月 5 日



【権限表】
代表取締役
・環境経営方針を作成し、誓約する。
・環境管理責任者を任命する。
・経営者による見直しを行う。
・「人・もの・金」の資源の準備を行う。
環境管理責任者
・エコアクション21ガイドラインの要求事項を満たすための環境経営システムの構築・運用を行う。
・環境経営目標、環境経営計画を策定し、達成するための取組を従業員に周知する。
・従業員に対する環境教育の計画を行う。
・環境経営レポートを作成する。
総務・工務部員
・環境経営方針、環境経営目標、環境経営計画を理解し、達成するために必要な取組を行う。

３.環境経営方針

環境経営方針

【基本理念】

環境負荷の低減に継続的に取り組み、自然との調和、環境汚染の予防、環境関連法規及び条例を遵守し社会的責任を果たします。

【基本方針】

以下の方針に沿って省資源・省エネルギーに配慮した事業活動を行い、二酸化炭素や廃棄物排出量及び水使用量の削減に努めます。

- 電気・燃料等のエネルギー資源や水の使用量の低減を目指します。
- 環境負荷の少ないエコ製品、リサイクル製品を積極的に購入、使用します。
- 剪定枝、刈草などのリサイクル、堆肥化を行い廃棄物の削減に努めます。
- 化学農薬、化成肥料の散布を必要最低限とし、環境にやさしい資材への切り替えを積極的に行います。
- 緑化工事を通じ地域社会の環境保護に貢献します。

制定日　2006 年 10 月 20 日

株式会社　野上緑化

代表取締役　野上一志

改定日　2022 年 7 月 1 日

４.環境経営目標、環境活動計画

（1）今年度目標と達成状況

R5 年度環境目標	達成状況	具体的な活動内容
① ガソリンの使用量を前年度比 2%削減	前年度より減少 （前年度比 96.7%） 達成	信号待ち以外の停車や駐車時のアイドリングはしない
		急発進、急ブレーキはしない
		給油時にタイヤの空気圧点検を行う
② 軽油の使用量を前年度比 2%削減	前年度より減少 （前年度比 90.2%） 達成	効率的な建設機械の使用を行う
		給油時にタイヤの空気圧点検を行う
③ 電力使用量を前年度比 2%削減	前年度より減少 （前年度比 94.4%） 達成	冷房の設定温度は 28℃、暖房の設定温度は 20℃
		蛍光灯のこまめな消灯、使用区画のみ点灯
		夏場は壁面緑化の灌水を朝行い社屋の壁面温度を下げる
④ 産業廃棄物再資源化率を前年度比 2%増加	前年度より増加 （前年度比 133.3%） 達成	ゴミ分別の徹底、再資源化
⑤ 事務所からでる廃棄物量を前年度比 2%削減	前年度より増加 （前年度比 173.2%） 達成できず	機密文書以外の古紙再資源化を行う
		裏紙使用、集約コピーの徹底
⑥ 剪定枝･刈草の堆肥化を現状のまま行う	従来通り行っている	刈草、刈芝等は、堆肥化施設に持ち込む
⑦ 水道使用量の前年度比 2%削減	前年度より減少 （前年度比 69.8%） 達成	こまめに蛇口をしめる
		適切な水使用量で作業する
⑧地下水の使用を適切な量にとどめる。	適正使用量での作業を心がけている	適正使用量での作業を心がける
⑨環境配慮型資材の販売量を前年度比 5%増加	前年度より減少 （前年度比 86.3%） 達成できず	フェロモン製剤の PR を行う
		ホームページに掲載
⑩事務用品は、エコマークのついているものや詰め替え用品にする	新規での増加は無いが、従来通りエコマークがついているものを購入している	環境負荷の少ないエコ製品、リサイクル製品を積極的に購入する
		買う前に必要かどうか考える

(2) 中期目標値

使用量・排出量	令和４年度 (2022 年度) 【基準年】	令和６年度 (2024 年度)	令和７年度 (2025 年度)	令和８年度 (2026 年度)
ガソリン（L）	7,205	6,917	6,772	6,772
R4 年度比　目標削減率		－４％	－６％	－６％
軽油（L）	14,865	14,271	13,973	13,973
R4 年度比　目標削減率		－４％	－６％	－６％
電力（kwh）	35,106	33,702	33,000	33,000
R4 年度比　目標削減率		－４％	－６％	－６％
産業廃棄物再資源化率（%）	63.6	66.1	67.4	68.7
R4 年度比　目標削減率		＋４％	＋６％	＋８％
事務所廃棄物量（kg）	164.2	160.9	157.6	154.3
R4 年度比　目標削減率		－２％	－４％	－６％
水道使用量（m3）	79.3	77.7	76.1	74.5
R4 年度比　目標削減率		－２％	－４％	－６％
環境配慮型資材販売･使用量(円)	1,060,000	1,081,200	1,102,400	1,123,600
R4 年度比　目標増加率		＋２％	＋４％	＋６％

（3）野上緑化の取り組み

＜壁面緑化＞

社屋の南面、東面、北面に、壁面緑化を設置し、夏場は自動灌水装置により全面に灌水を行う。

＜雨水利用＞

雨水タンクを利用し、トイレの水は雨水を利用する。

＜環境に配慮した資材の使用・販売＞

・フェロモン製剤

性フェロモンを利用したアメリカシロヒトリ誘引捕殺システム。雌成虫の性フェロモンにより誘引された雄成虫を捕殺し、次世代の発生を少なくする。薬剤散布と異なり、人体、有用昆虫、魚介類、植物等にはほとんど影響がない。

・樹幹注入剤

樹木の幹に小さな孔を開けて注入するタイプの殺虫剤。効果の持続期間が長く、１回の施工で１シーズンの防除効果が期待できる。薬剤散布と異なり飛散が無く、周辺の建物、作物、人体に影響を与えることがない。

＜エアコンの吹き出し口にファン設置＞

エアコンの吹き出し口にファンを設置。エアコンの風を利用し空気を循環させ、エアコンを効率的に使用する。

＜蛍光灯＞

蛍光灯は、使用しない箇所は蛍光灯自体を取り外し、使用する箇所のみ点灯するようにしている。また、順次 LED 電球への取り替えを行っている。

＜車両の更新＞

社用車は随時更新し、燃費及び安全性能の向上に努めている。

令和 5 年は 3t ダンプ、軽乗用車、軽バンを更新した。

3t ダンプトラック

（令和 5 年 3 月導入）

平成 27 年度燃費基準 10%向上達成車

Nox･PM 適合

平成 28 年騒音 N2A1A

マフラー加速適用車

５.環境経営目標の実績

①当社における、二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、及び排水量の過去の結果との比較を以下に示す。

表１．温室効果ガス総排出量、廃棄物総排出量、総排水量の過去３年間分との比較

		R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	前年度比（%）
温室効果ガス総排出量（kg-CO2）	総量	61115.7	69675.2	72066.6	67167.3	93.3
廃棄物排出量(t)	総量	259.2	319.4	244.2	227.9	93.4
	一般廃棄物	248.7	255.2	240.2	217.8	90.7
	産業廃棄物	10.5	64.1	4.0	10.1	252.5
総排水量(m3)	井戸水使用量	2368.5	7498.6	8247.5	13391.9	162.4
	下水道	57.3	61.9	79.3	55.3	69.8

※電力の二酸化炭素排出係数は、北陸電力の 2022 年度調整後排出係数 0.487(kg-CO_2/kwh)を使用

表 2. 廃棄物排出量の比較

		R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	前年度比（%）
一般廃棄物	再生利用(t)	248.5	255.1	240.0	217.5	90.6
	単純焼却(kg)	171	153	164	284	173.2
	再資源化率(%)	99.9	99.9	99.9	99.9	100.0
産業廃棄物	再生利用(t)	8.3	62.5	2.57	8.58	333.9
	廃棄物最終処分(t)	2.1	1.63	1.47	1.53	104.1
	再資源化率(%)	79.6	97.5	63.6	84.8	133.3

表 3. 各使用量の比較

	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	前年度比（%）
ガソリン(L)	6914.9	7091.6	7205.3	6966.7	96.7
軽油(L)	13046.1	15021.0	14865.8	13402.0	90.2
電気(kWh)	22790.1	29157.3	35106.6	33123.9	94.4
ガス(kg)	―	15.5	48.4	98.74	204.1
水道(m3)	57.3	61.9	79.3	55.3	69.8

②フェロモン製剤，樹幹注入剤の販売・使用量を以下に示す。

表 4.フェロモン製剤・樹幹注入剤の販売・使用量

	販売量	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	前年度比（%）
フェロモン製剤	（セット）	169	0	169	156	92.4
樹幹注入剤	（本）	50	60	223	110	49.4
販売額	（万円）	82.4	9.7	106.0	91.5	86.3

６.環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

温室効果ガスの総排出量は前年度比 93.3%であった（表１）。ガソリン、軽油の使用量が前年度比 96.7%、90.2%と減少したほか、電気使用量も前年度比 94.4%と減少した。これまでの傾向として、業務量（売上）が増加すれば燃料や電気使用量も増加する傾向にあったが、今年度は業務量が増加したにも関わらず、使用量は減少していた。車両の走行距離は増加していたため、燃費性能が向上しているものと見られ、社用車を随時更新している影響が考えられた。車両の更新は、燃費など環境性能の向上だけでなく、安全性能も高まるため、業務の円滑な遂行に貢献していると思われる。

電気使用量については、気象条件や業務量によるばらつきが大きいが、令和 2 年から増加を続けていたため、減少に転じた今期を契機として、使用量の削減に努めたい。

廃棄物の総排出量は前年度比 93.4%であった（表１）。今期は工事が多かったため、産業廃棄物量は前年度比 252.5%であった（表１）。産業廃棄物の再資源化率は 84.8%と前年より向上しており（表２）、引き続き再資源化率の向上に努めたい。事務所からでる廃棄物量（単純焼却）は 173.2%と大幅に増加しており（表２）、これはストックしていたシュレッダーごみをまとめて廃棄したことによると見られる。機密性の高い文書はシュレッダーが必要だが、シュレッダーを行う前に文書を選別するなど、更なる分別の徹底、ゴミの削減に努めたい。

総排水量については、水道使用量は前年度比 69.8%であったが、井戸水使用量が前年度比 162.4%と高かった（表１）。井戸水使用量は以前から年によるばらつきが大きく、積雪や気温の影響を受けやすいため、使用量を一定に保つことが困難ではあるが、水道使用量を含め適切な使用を心がけたい。

環境配慮型資材の販売・使用量について、性フェロモン製剤はほぼ例年並み、樹幹注入剤は前年度比 49.4%であった（表４）。樹幹注入剤は通常の薬剤散布ができないような場面での需要が見込めるほか、３月に適用範囲が拡大した薬剤もあり、販路の拡大が期待できる。環境への負荷が少ないことや自社試験による実績をアピールし、売上につなげたい。

全体的に前年度よりも排出量が減少しており、今後もエアコンの適正温度での使用，電灯のこまめな消灯，アイドリングストップなど、資源の節約への取り組みを続けていきたい。

さらに、弊社の主な業務である緑地管理、造成などにより緑を守り育ていくこと、また、特殊空間緑化（屋上緑化、壁面緑化）など新しい場所への緑化を広げていくことにより自然環境と私たちの暮らしの共存に貢献したい。

【令和６年度　環境経営目標】

令和６年度環境経営目標	具体的な活動内容
①　ガソリンの使用量を令和 4 年度比 4%削減	アイドリングストップ
	急発進、急ブレーキはしない
	給油時にタイヤの空気圧点検を行う
② 軽油の使用量を令和 4 年度比 4%削減	効率的な建設機械の使用を行う
	給油時にタイヤの空気圧点検を行う
③ 電力使用量を令和 4 年度比 4%削減	冷房の設定温度は 28℃、暖房の設定温度は 20℃
	夏場は壁面緑化の灌水を朝行い社屋の壁面温度を下げる
	蛍光灯のこまめな消灯、使用区画のみ点灯
④ 産業廃棄物再資源化率を令和 4 年度比 4%増加	現場で出たゴミの分別を行う（ダンボール、鉄ゴミなど）
⑤ 事務所からでる廃棄物量を令和 4 年度比 2%削減	機密文書以外の古紙再資源化を行う
	裏紙使用、集約コピーの徹底
⑥ 剪定枝・刈草の堆肥化を現状のまま行う	剪定枝、刈草、刈芝等は、堆肥化施設に持ち込む
⑦ 水道使用量の令和 4 年度比 2%削減	こまめに蛇口をしめる
	適切な水使用量で作業する
⑧　地下水の使用を適切な量にとどめる。	適切な水使用量で作業する
⑨　環境配慮型資材の売上高を令和 4 年度比 2%増加	フェロモン製剤・樹幹注入剤のＰＲを行う 防除場面において積極的に使用する
⑩エコマークのついている事務用品や詰め替え用品の継続利用	環境負荷の少ないエコ製品、リサイクル製品を積極的に購入する。買う前に必要かどうか考える

７.環境関連法規等の順守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

関係法令の違反、訴訟なし。関係当局からの違反等の指摘は、過去１０年間なし。

法令	順守事項等
富山市火災予防条例	剪定枝、刈草・刈芝等ストックヤードの適正管理
	灯油、軽油の適正貯蔵
	燃料保管量の厳守（ガソリン40L未満、軽油、灯油200L未満）
騒音規制法	規定以上の機械を使用する場合の届出
振動規制法	規定以上の機械を使用する場合の届出
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	一般廃棄物の収集又は運搬の許可
	産業廃棄物の収集又は運搬の許可
	委託先の許可確認、委託契約の締結、契約書の保管
	適合マニフェストの使用 マニフェストの回収、照合、保管、交付状況報告
	野外焼却の禁止
家電リサイクル法	特定家庭用機器の適正処分
都市緑地法	緑地保全地域内、特別緑地保全地区内における特定行為の届出
毒物及び劇物取締法	毒物又は劇物の適正保管
	譲渡の記録、保管
	盗難、紛失の防止措置
建設リサイクル法	分別解体、再資源化促進
地球温暖化対策推進法	温室効果ガスの排出抑制
循環型社会形成推進基本法	廃棄物の適正処理
大気汚染防止法	自動車排出ガス規制
悪臭防止法	特定悪臭物質の排出規制
フロン排出抑制法	第一種特定製品の簡易点検・定期点検の実施
化学物質排出把握管理促進法	対象化学物質の数量把握
	対象化学物質のSDS提供
容器包装リサイクル法	ごみの分別

８.代表者による全体評価と見直しの結果

環境経営目標については、温室効果ガスや廃棄物量の削減等、環境負荷の低減に継続的に取り組む。

課題とチャンスとしては、グリーンインフラが挙げられる。社会資本の整備や社会課題の解決の一手段として、グリーンインフラを積極的に活用する動きが国内外で広がっており、当社としては追い風と言える。造園業の強みを活かした取り組みが可能であり、将来的には環境経営目標として植栽本数などを設定するのも良い。

また、樹木や緑地から得られる生態系サービス（酸素生成や炭素固定、緑陰効果等）を数値化するシステムの構築や改良が進んでおり、こうしたシステムを当社の緑地管理に活用するよう取り組んでいるところである。現在は導入の段階であるが、システムを活用した緑地管理が定着すれば、数値化された生態系サービスを環境経営目標として設定することもできるものと思われる。

エコアクション２１をグリーンインフラや SDGs への取り組みとも連動させ、より実効性のある内容に見直しスパイラルアップさせていきたい。